

キリギリス

Gampsocleis buergeri

種名



| | |
|------------|--|
| 分類 | バッタ目キリギリス科 |
| 形態的な特徴 | 体色は緑色と褐色の 2 型がいて翅に模様があるのが特徴。雌の方がやや大きい。体型はややずんくりにしているが、左右から押したように縦に扁平。殆どの個体は翅が腹部に達しないがまれに長いものもいる。触角が長く顔は面長である。雌の産卵管は剣状。脚には棘があり、耳は両前脚のすねのところにある。 |
| 分布 | 本州、四国、九州に分布する。 |
| 繁殖行動 | 地域によって異なるが、6～8 月には成虫が現れる。主に昼間活動し、雄は大きな声で鳴き、縄張りをもつ。雌は土中に長い産卵管を差し込んで産卵する。産卵が終わると成虫は死んでしまう。卵はそのまま越冬し、4 月頃から幼虫が現れ始める。 |
| 生息場所 | 草むらの中で生活し、やや草丈の高い草地を好む傾向がある。田畑際の畦畔、路傍の草むらや河川の堤防などにも生息する。 |
| 食性 | 雑食性だが、成長するにすれて肉食性が強くなり、他の昆虫や小さなカエルなども捕食する。 |
| 生息環境への配慮事項 | やや高い草丈の草むらに生息するため、これらが除草剤の使用や草むら部分の消失にあうといなくなってしまう。 |
| その他 | 指標種 |

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変